

シン・研修団体（進化、深化、真価→真化） 支部長 山田 哲哉（61年度）



「シン・ゴジラ」「シン・ウルトラマン」「シン・仮面ライダー」。怪獣・怪人に夢中になった世代には、うれしい映画が続いています（3本とも見ました）。監督、企画、脚本等を務めた庵野秀明氏は、「シン」に込めた意味について問われた際、『新』

『真』『神』などの様々な意味を感じてもらいたいという意図を込めた」と答えています。

5月13日、150周年に向けて開催した支部春季全体研修会で、当支部OBで元ときわ会長の高橋雄一様からご講演いただきました。その熱く、魂のこもったお話の中で、ときわ会の長い歴史における大きな分節点として、次の二つをお示しいただきました。

- ・長谷川 清 初代会長が目指した「官立新潟師範学校同窓会から研修団体への**第一歩**」
- ・遠藤 稔 元会長が本旨制定とともに目指した「同窓会的な集いから、真の研修団体としての集いへの**第二歩**」

そして、「真の研修団体を目指した**第三步**」については、「価値とは本旨の具現化」「一人一人の会員の教師としての生き方と発展を支援する集まり」「『真価を問う問い』への今の答えを仲間と共に検証」の3点を、150周年記念事業を通して明らかにすべきこととしてご指導いただきました。

ときわ会の先達が「常磐会」から「ときわ会」への**進化、真の研修団体への深化（真化！）**を目指す中で問い続けてきた、会としての**真価**。

新たな大きな分節に、当事者として立ち会うことのできる私たちは幸せです。だからこそ、私たちは、先達が積み上げ、紡ぎ、継承してきた「ときわ会本旨で目指すこと」「ときわ会員としての志」を、後進に、未来に継承していく義務があります。

さあ、今こそ、自分には何ができるのか、何をすべきなのか、何をしたいのか、今の自分が置かれた足下を見つめ、真の研修団体への第三步を確実に踏み出していこうではありませんか。